

なら 植防ニュース

平成 23 年度農薬安全使用研修会が、3 月 7 日に奈良県農業総合センター交流館で開催された。

「新農薬の開発事情と安全使用」

緑の安全推進協会講師池本裕志氏（日本農薬株式会社）

農薬取締法は平成 15 年の改正から 5 年を経過し、食品の残留農薬に係る安全と農薬使用に係る安全性向上の見直しが検討された。試験例数の確保、GLP 制度の導入などが新たに加わり OECD テストガイド基準並の整備状況となっている。

世界の新農薬の開発状況は新しい剤の登録数が減少傾向である。農薬メーカーの合併による開発企業数の減少、開発予算の縮小、登録維持管理費の増大、農薬以外の防除技術（天敵、抵抗性育種）が増大している。欧米以外のアジアやラテンアメリカの農薬市場が増大しており、農薬マーケットは減少していない。農業指導者が少ないので、農業技術の普及と農薬普及の両方が必要である。

特定農薬（特定防除資材）として平成 15 年に食酢、重曹、地場天敵を指定し、その後の審議結果が平成 23 年 2 月に出された。別表 1：名称から資材が特定できないもの、別表 2：資材の原材料に照らして使用量や濃度によっては農作物等、人畜及び水産動物に害を及ぼす恐れがあるものに区分された。別表 1，2 の資材を防除目的で使用すると農取法で罰せられることになり、農薬登録が必要になる。

昨年の農薬使用状況調査では、ほとんどの農家（99.6%）は適正に使用しており、農家への信頼度は高い。不適正使用の例では、使

発行（社）奈良県植物防疫協会

〒634-0813

奈良県橿原市四条町 8 8

奈良県農業総合センター内（2 階）

TEL：0744-22-8151

FAX：0744-22-8152（専用）

目 次

◎平成 23 年農薬安全使用研修会	1 ページ
◎環境保全型農業推進研修	2 ページ
◎平成 23 年度近畿中国四国農業試験研究 推進会議生産環境部会	3 ページ
◎登録失効になった農薬	4 ページ

用作物の間違いがみられ、「サヤインゲン」と「インゲンマメ」の取り違えとか、「トマト」「ミニトマト」の取り違えである。「キュウリ」では、商品名が異なるが同一成分が含まれているため使用回数の超過となった事例がある。



厚生省などで実施する食品検査で残留農薬基準値超過の違反が見られる。その主な原因は、①ラベルをよく見ない、②適用作物に似ているので使用した、③希釈倍数を間違えた、④使用時期を間違えた等である。農薬安全使用の基本に戻って事故防止を図って貰いたい。

原発事故後の対応として、食品中の放射性物質の暫定基準値が見直され、平成 24 年 4 月 1 日から新基準値が設定される予定である。専門家からはきわめて高い安全性を重視した基準値と考えられている。

平成 24 年 2 月 29 日に交流館で行われた環境保全型農業推進研修会を紹介する。

1. 「緑肥作物の特性と環境保全型農業における利活用」

愛媛大学 上野秀人

我が国は化学肥料の原材料のリン鉱石やカリ鉱石等を 100% 輸入しているが、このような好物資資源は有限であり、あと 40 ~ 80 年で枯渇するとも言われて高騰している。エネルギーにおいて再生可能エネルギーが求められるのと同様に、肥料においても緑肥を利用することが検討されている。

緑肥（有機物）は土壌に投入すると、微生物の働きでゆっくりと分解して無機化し、作物に吸収される。有機物の一部は腐食となって土壌の肥沃化、物理的機能向上に貢献する。緑肥の活用は時代背景と共に移り変わり、緑肥作物の品種が拡大し、窒素固定、透水性向上、線虫対策、塩類除去などいろいろな用途に活用法が開発されてきた。

緑肥作物は休閑期や裏作りに栽培し、目的作物を栽培する 2 週間から 1 ヶ月前に鋤込んで土壌に有機物を供給する。鋤込まれた緑肥は急速に分解する過程で作物にとって有害なガスが発生するので、最低 2 週間以上放置する必要がある。果樹園の草生栽培では、果樹と同時に栽培されるので、果樹の生育を妨げず雑草を抑制し、養分を可溶化して生育を助け、土壌浸食を防止等に利用されている。

愛媛大では、各種の緑肥作物を水田に導入して無肥料で稲作を 5 年間続けている。シロクローバーやヘアリーベッチなどのマメ科緑肥区は無施用区のおよそ 1.5 倍の収量であった。緑肥鋤込み区では穂数と登熟歩合の向上が見られ、化学肥料施用区よりやや劣るが、実用性のある生産技術であり、有機栽培などではもっと有効に利用出来る。

2. 「奈良県の果菜類における天敵利用の取り組み」

奈良県農業総合センター 井村岳男

露地なす栽培の害虫は、1 次害虫（ニジュウヤホシテントウ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ）と、殺虫剤で防除すると増えてくる 2 次害虫（ミナミキイロアザミウマ、ワタアブラムシ、ナミハダニ）が発生する。2 次害虫は、1 次害虫防除に天敵に影響の少ない殺虫剤（トルネード、プレバソン等）を使うと、増加しにくい。これは殺虫剤の使用によって天敵の活動が抑えられているために 2 次害虫が増加すると考えられる。

ナスのミナミキイロアザミウマの天敵であるヒメハナカメムシ類は、フレンチマリーゴールドの花に寄生するコスモスアザミウマ（ナスに加害しないアザミウマ）を餌にして増える。ナスほ場の周縁部にフレンチマリーゴールドを植えると、ミナミキイロアザミウマの防除を控えても発生量が減少した。天敵を積極的に利用するために、天敵の住み着きやすい植物をほ場周辺に植栽することで、防除が可能である。



フレンチマリーゴールド植栽によるミナミキイロアザミウマの天敵増殖

平成23年度近畿中国四国農業 試験研究推進会議生産環境部会

問題別研究会「高度管理手法による作物病
害虫制御技術」から

奈良県病害虫防除所 国本 佳範

去る3月5日から7日まで、広島県福山市
において標記問題別研究会が開催され、近畿
中国四国の試験研究機関から100名余りが集
った。今年度の研究成果について病害分科会
で23題、虫害分科会で37題の発表があり、
活発な質疑・意見交換が行われた。まず、一
般発表に先立ち神戸大学大学院の中馬いづみ
氏から「イネいもち病菌のレース変異と非病
原力遺伝子の Multiple translocation」と題して
基調講演があった。その後、両分科会に分か
れた。虫害分科会では冒頭に京都府の徳丸
晋氏から「これまでとこれから」、兵庫県の
河野 哲氏から「ダイズ害虫の生態と防除戦
略」の講評があった。

虫害分科会の一般講演は新たな農林水産政
策を推進する実用技術開発事業や国の委託プ
ロジェクトの成果報告が大半で、県単独予算
で実施している現場問題解決型の報告は少な
かった。そのような中であって特に印象に残
る報告を以下に述べる。

「農産物直売施設」に出荷される夏野菜供給 ほ場における害虫等の発生状況」

京都府 上山 博氏

各地で活況を呈する農産物直売所である
が、そこに出荷されている農産物の安全性に
関して、消費者は大きな期待を寄せている。
このため、信頼を裏切った場合には大きな影
響が懸念される。そこで、履歴記帳を元に栽
培時の農薬使用状況を調べたところ、約7割
が無農薬で栽培されていた。これらの生産ほ
場でナス、キュウリの害虫、天敵の発生状況
を調査した結果、ヒメハナカメムシ等の土着
天敵が活発に活動していた。生産される農産

物の品質はそれほど高くないが、無農薬で栽
培されている状況が具体的に示された。

「蛍光増白剤を用いた IYSV 媒介虫ネギアザ ミウマの標識法」

香川県 相澤美里氏

微小な飛翔性昆虫の効率的な標識方法を開
発した。洗剤に加用されている蛍光増白剤を
ネギアザミウマに散布処理し、再捕獲後にブラ
ックライトを照射すると蛍光色を発し、標識
として利用することが出来た。この方法によ
りネギアザミウマは2日間で100m以上移動
すること、その多くは30m程度であること、
午前中の早い時間に活動が活発であることな
どが明らかになった。本法は非常に簡便に実
施出来ることから、様々な微小害虫への応用
が可能と考えられた。

「超音波発振装置を用いたダイズ・エダマメ における虫害防除の可能性」

徳島県 兼田武典氏

コウモリがガ類を捕獲するのに超音波を利用
することを逆手にとって、超音波を発生させ
るとガ類が忌避行動することを活用して防
除を試みた。実際に、ハスモンヨトウなど
には効果はあるが、タバコガ類やカメムシ類
には効果はなかった。まだまだ、基礎的な研
究であるが、将来の新しい防除法となる可能性
を秘めた研究であった。



農産物直売所の農産物の7割が無農薬栽培

登録農薬失効情報(2012. 2. 1~2012. 2. 29)

農林水産消費安全技術センター農薬検査部の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名(略称)	失効日
殺虫剤				
4596	DEP乳剤	三共ディプレックス乳剤	三井化学アグロ	2/21
14994	BT水和剤	ダイポール水和剤	住友化学	2/23
15921	アセフェート・MEPエアゾル	武田オルトランS	住友化学園芸	2/15
15922	アセフェート・MEP・トリホリンエアゾル	武田オルトランC	住友化学園芸	2/15
15963	ペルメトリン乳剤	三共アディオオン乳剤	三井化学アグロ	2/21
15972	ペルメトリン水和剤	三共アディオオン水和剤	三井化学アグロ	2/21
15978	ペルメトリンエアゾル	サンフラパーA	三井化学アグロ	2/21
殺菌剤				
18631	フサライド水和剤	日農ラブサイドフロアブル	日本農薬	2/7
21029	プロベナゾール複合肥料	オリゼメート入り複合燐加安864	Meiji Seika	2/25
21030	プロベナゾール複合肥料	くみあいオリゼメート入り複合燐加安864	コフケミカル	2/25
22347	マンゼブ水和剤	三共ペンコゼブ水和剤	三井化学アグロ	2/18
除草剤				
10712	ターバシル水和剤	デュポンシンバー	丸和ハイツ	2/23
20324	DCMU・DPA・MCP P粒剤	クサノンV粒剤	住友化学園芸	2/8
20325	DCMU・DPA・MCP P粒剤	ゼストE粒剤	大阪化成	2/8
21631	チアジニル・インダノファン・クロメプロップ・ベンスルフロンメチル粒剤	ブイゲットダイナマン粒剤	日本農薬	2/8
21638	オキサジクロメホン・クロメプロップ・ブロモブチド・ベンスルフロンメチル粒剤	ホームランキング1キロ粒剤75	デュポン	2/8
21640	オキサジクロメホン・クロメプロップ・ブロモブチド・ベンスルフロンメチル粒剤	ホームランキング1キロ粒剤51	デュポン	2/8
21985	ターバシル・DBN粒剤	ネコソギキング粒剤	レイボ	2/28